



棟梁集

小島文庫

2
4772
9



2
4772
9

松屋棟梁

松屋棟梁集

書

おちろく 尺のいへやかくぬ 舟 舟
まるとまのいへやかくぬ

葵

さうとまのいへやかくぬ 舟 舟
この名跡おちろく

寄花玉

おちろく 舟のいへやかくぬ 舟 舟
人馬おちろく 舟のいへやかくぬ

高田

高田早苗氏贈

寄心五

三姉のしんちん **秋** ちんごころあ
かりばしと結ふ **日** あり

七

春まをまきし **老** あり **恥** あり

別 **心** の一は

文句

まがしつある **路** とも **心** あり **心** あり

歌 **心** あり **心** あり

まの **心** あり **心** あり **心** あり **心** あり

あの下風

水鳥

心 あり **心** あり **心** あり **心** あり

秋月清光

わが **心** あり **心** あり **心** あり **心** あり

秋心五

しん **心** あり **心** あり **心** あり **心** あり

本所 雲山寺 貞典和尚子 別業 隨
時 死の 團ろを ばくせうする ありて 呼

よめる とき 狂歌

狂歌 ありて けい 一末 外 大 ざる ありて 狂歌

せよし

狂歌

こがの 子 次 子 ありて けい 一末 外 大 ざる ありて 狂歌
ありて せよし

是を 宗 屯の 子の 君 松 平 何 臣の
かゝの 身 の 由 とも けい 一末 外 大 ざる ありて 狂歌

狂歌

ありて

狂歌 ありて けい 一末 外 大 ざる ありて 狂歌
ありて せよし

狂歌

一末 外 大 ざる ありて 狂歌
ありて せよし

ありて せよし

ありて せよし

え何となく、雲衣をうき福也を、
とあつらひ、更紗の江の詞とさ、
くさくさ、

秋

秋の夕、花のつらき、
あつらひ、

雑冠花

君の心、秋よには、
あつらひ、

春

の

うの、天の、
あつらひ、

二

あつらひ、
あつらひ、

三

あつらひ、
あつらひ、

四

あつらひ、
あつらひ、

一、いふ所は、おのれも、
まのねも、まのねも、うれ、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、

南

まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、

三、あふ記

まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、

のあふ、まのね、まのね、

まのね、まのね、まのね、

四、あふ記

まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、

初

まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、
まのね、まのね、まのね、

神楽

らんねん... じり... せん... せん... せん...

ニヤカ

さう... かのう... とう... 今... の... ち...

意難

い... ね... ね... ね... ね... ね... ね...

薙草

あ... ち... の... ち... の... ち... の...

あ... ね... の... ち... の... ち... の...

光陰可憐

あ... の... の... の... の... の... の...

言叶

あ... の... の... の... の... の... の...

言叶

あ... の... の... の... の... の... の...

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

● 批 生 用

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

此 水 子

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

雲 雲 雲 雲

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

松 浦 人 籍 川 一 舟 平 子 子 子 子

けしき 雲 けしき けしき
五 次 分 書 子 賢

新 恩 院 の ね の 子 子 子 子

春はゆめよとなくさるるのらたかたに
なまじんの為よとせむこそううめはふも
とちりたるらんねのん

天保三三三の朝歌の試景

年一見い矢たりしりなく梅弓のいそも
の春の候

三三三

わらわしつゝの朝大政子えなめんつね
ちぬも春ははつちり

子の

アツクはるる
のりも春
三三三の
ねのとて
うん

イのりゆゝ新よのしほりそんねの
みまもくはつはるる

そふとて

ねらふもアツくあこしほあひはれまのま
とらふもあうれ

若菜

目れやあし春の田子あて老うか子若
葉はつむえをよーかきけ

雪

まつやよの梅をいよきのちがうてねみ

こゝろをさへくちのまき

孫を

春の日のいしりあはるるまはるのまはる
おろししあはるのまはる

春祝

梅の枝をさへくちのまき
あはるのまはるのまはる

おまへ

あはるのまはるのまはる
あはるのまはるのまはる

ん

あはるのまはるのまはる
あはるのまはるのまはる

孫

あはるのまはるのまはる
あはるのまはるのまはる

あはるのまはるのまはる
あはるのまはるのまはる

あはるのまはるのまはる
あはるのまはるのまはる

るはしあはれうねいあはれうねい

るはしあはれうねいあはれうねい

あはれうねいあはれうねい

都

あはれうねいあはれうねい

春田

あはれうねいあはれうねい

あはれうねいあはれうねい

都

あはれうねいあはれうねい

春田

あはれうねいあはれうねい

同部花集

春の風をよみてはよき花のうらみ
風のかほりかへ

春花

うねのあはれをよみてはよき花のうらみ
春のちるしよのふ

春月

あけのつゆをよみてはよき花のうらみ
あけのつゆをよみてはよき花のうらみ

春月のまほしき

よき花のうらみよみてはよき花のうらみ
月夜おのる春月

春花

あけのつゆをよみてはよき花のうらみ
あけのつゆをよみてはよき花のうらみ

春月

あけのつゆをよみてはよき花のうらみ
あけのつゆをよみてはよき花のうらみ

同部

あけのつゆをよみてはよき花のうらみ
あけのつゆをよみてはよき花のうらみ

五つ山に於て

藤原公家の子孫に於て

其の功績を記す

其の事

其の功績を記す

其の功績を記す

三

其の功績を記す

其の事

其の功績を記す

其の事

其の功績を記す

其の事

其の事

天保三年三月八日

其の功績を記す

才子の良哉のくしりては憂を
^嘆息とていふもなげにけり
くしりては憂をくしりては憂を
くしりては憂をくしりては憂を

松浦静山所引鼓子のあやみ
ぐとあやみ

新の島の危きしるあやみ
くしりては憂をくしりては憂を

久世のあやみ
あやみ

考ふるもいふてはるあやみ
くしりては憂をくしりては憂を

長岡備前侍従の一周馬子
あやみ
あやみ

くしりては憂をくしりては憂を
くしりては憂をくしりては憂を
くしりては憂をくしりては憂を
くしりては憂をくしりては憂を

ふんそとる 天をまみりしや
取人しとぬる民よりのみ
おれおれはきし 翻たるよの
かきあふまの一年ふりし
とろや ぼろし 字よせ
本しあふく 漢のたのま
そのよめふんし ちん
ちんし ちんし ちんし
ちんし ちんし ちんし
ちんし ちんし ちんし

天をまみりしや
取人しとぬる民よりのみ
おれおれはきし 翻たるよの
かきあふまの一年ふりし
とろや ぼろし 字よせ
本しあふく 漢のたのま
そのよめふんし ちん
ちんし ちんし ちんし
ちんし ちんし ちんし
ちんし ちんし ちんし

けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは
けいしんは

何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても
何れに於ても

情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに
情まゝに

あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの
あやうしの

やうな
やうな
やうな
やうな
やうな
やうな
やうな
やうな
やうな
やうな

よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる

よる

よる

よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる
よる

よる

おもむき 左より右へ 中へよきまつく
中へよきまつく

なな梅

万代の春はかゝるやうに 春の
言のなほ也

は 清濁の 春の 中へよきまつく

新地はよ 平時策の 春の 山庄を

言ふ事 春を 春の 中へよきまつく

中へよきまつく 春の 中へよきまつく

春の 中へよきまつく

いひ

梅 ちよとあまの 春の 中へよきまつく

いひ

春の 中へよきまつく

春の 中へよきまつく

いひ

春の 中へよきまつく

春の 中へよきまつく

いひ

春の 中へよきまつく

出るるさつらうのさつらう

あつらふさつらう 新編のさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

菊

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

侍書を傳

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

伝を傳

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう けつらうのさつらう

あつらふさつらう けつらうのさつらう

布

心算

昔よりぬちをいふに
なつかしの心算
柳の影のまはる

柳

昔よりぬちのさし
まはる柳の影のまはる
久しき心算

車

昔よりぬちのさし
まはる柳の影のまはる
久しき心算

高海

今昔はさきさき
わがさきさき
女の人さきさき

東の風

昔よりぬちのさし
まはる柳の影のまはる
久しき心算

高海

今昔はさきさき
わがさきさき
女の人さきさき

高海

けりあるうらみせむれりしと聞て
 こころありけり
 西方路之
 けせむいづれなきものありて西跡
 をうると思ひまらうれ
 年のけり
 二が海げんをいづる及りけるは
 年のをさめり
 男子
 けり世よ志ゆき三つしに河見を

一年のけり

~~年のけり~~

仲のけり

初春
 けり山をむきけり
 かくみをもいづる

二 春津津
 この下にけり
 のありきたりけり

三 昔記
 まらるる
 けり
 春

たうけふと ^馬あんなも ^やうりうりの ^やあひまうい
あひま ^やあひま

町人

とく ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
う ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

校友

あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

あひま

あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

龍舟

あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

い

あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

あひま

あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま
あひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま ^やあひま

あつれきやうとていふ

えき

くらうしーぶのこきりりてんる
ぬのりおのるき

相持のけ

かけていこうしあのいそんぐさ
ほりけいしーぶのり

注

注部をいふかたは
ゆきのぬりり

あつれきやうとていふ
をいふ口ばのきりりてんる

あつれきやうとていふ
ゆきのぬりり

あつれきやうとていふ
ゆきのぬりり

あつれきやうとていふ
ゆきのぬりり

双

りぐらうの馬あり
ゆるせいのりり

り

持てた
まの
おひ
てい
はら

よきことなるは
おのれは

おのれは

かきかき
おのれは

おのれは

まことなるは
おのれは
おのれは
おのれは

美日

よきことなるは
おのれは

現世お徳

おのれは
おのれは

日

おのれは
おのれは

おのれは

まのどいえとくまらあひやあひる
くはるはの月

神見部

のり

空にはあまのついでにみきし
あのみはれき柳

リ路を

けきくしくはのまも
うのまのふま

まの

あふ—ふ所のまよりにあまの

のわのほの

しよふのそまふくま
しよぬのらたの

口を橋布

君のほうけおそび
よきうにせめ

あの中

伊のまあまの人の
あちのの

ゆらつ—あまのちね

一かよひにやあはれ

とやあはれ

つとめたる物もたつるさちり
つとめたる物もたつるさちり

一にあはれ

いとあはれにやあはれ
いとあはれにやあはれ

いとあはれ

いとあはれにやあはれ
いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

いとあはれにやあはれ

こゝろのしんせいのしんせいのしんせいの
五つあふのしんせいのしんせいの
あふのしんせいのしんせいのしんせいの
あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

川新蓮馨斎

上人の

ふた典法師のふた典法師のふた典法師

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

あふのしんせいのしんせいのしんせいの

何事もなかりしとておぼしき一のこ
わのこころをいふにたはし

三つおぼし

とせりしにたはしおぼしきとていふ
こころをいふにたはし

布子三三三の貞典和向天保四

二年の卯月廿六日三身誓願

寺住持命もあはれとていふ

世をたてておぼしきとていふにたはし

りるるおぼしき

七河の村の藩士内藤三右衛門

いふにたはしとていふにたはし

このおぼしきとていふにたはし

うけいふにたはしとていふにたはし

とていふにたはしとていふにたはし

おぼしきとていふにたはしとていふにたはし

おぼしきとていふにたはし

おぼしきとていふにたはし

おぼしきとていふにたはしとていふにたはし

おぼしきとていふにたはし

夏天家

やうきほりなまのちきりあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき

あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき

あまのけしき
あまのけしき
あまのけしき

あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき

あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき
あまのけしきあまのけしきあまのけしき

又そのふも七かへは...

如海は舟

はつたー...の物のからしとらり

〜をさうれ

言をさる

あまの己のさきと今よりいねのさう

さやうはみさしてや

おなま

うらみかー...のさまたんよとい

かきし細さのま

たうまへ...ののまもいりし利

録のし妙をいひらん

いんさう...のあとかけいん

さー新子...のま

新の...のま

さう...のま

月...のま

い...のま

あまの...のま

言相の...のま

あはれきりてくさくさ
うたはきりてくさくさ

けふはつひのあはれきりてくさくさ
~~あはれきりてくさくさ~~

秋哀傷の太田舟方うたの初七

世を枯らしてゆくあはれきりてくさくさ
あはれきりてくさくさ

木を枯らしてゆくあはれきりてくさくさ
あはれきりてくさくさ

木の葉もさくさくさ
あはれきりてくさくさ

あはれきりてくさくさ
あはれきりてくさくさ

あはれ

あはれきりてくさくさ
あはれきりてくさくさ
~~あはれきりてくさくさ~~
あはれきりてくさくさ
あはれきりてくさくさ

物と歌を拾遺抄

さうなるまうもさうもいひくさふいひい
かこいし母のまうかへええ

秋田歌

月のかいひのしるのおうまひか
のいねのまう

秋田歌

昔今ほつらぬたやまのまう
のまう
けいけいけいのまう

まうのまう

秋のまうのまう
まうのまう

秋田歌

月のかいひのまう
まうのまう

秋田歌

秋のまうのまう
まうのまう

秋

まゝに申すはなほと云ふ世の世にあらざらん
かゝる起るにけり

と云ふ通を言ふはつと云ふはつと云ふはつ

つと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

りばつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

と云ふはつと云ふはつと云ふはつ

と云ふはつと云ふはつと云ふはつ

と云ふはつと云ふはつと云ふはつ

と云ふはつと云ふはつと云ふはつ

和のえと云ふはつと云ふはつと云ふはつ
あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ
あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

水と云ふ

あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ
あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

山と云ふ

あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ
あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ
あつと云ふはつと云ふはつと云ふはつ

何れの時

物

事かしの及み山片うらみおま

あふ物

時

おんういれそあつくくお何

せんういれそあつくく

物

ああしめいしぬるの

おんういれそあつくく

山

ああしめいしぬるの

ああしめいしぬるの

ああしめいしぬるの

ああしめいしぬるの

山

ああしめいしぬるの

ああしめいしぬるの

山

ああしめいしぬるの

ふんふんふんふん
おぼろげに

水

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

水

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ

あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ
あつちいふふふふふふ

水

さねと 帯と さらさらの 髪を さらさら

早草の海

ちゆのそくはいて 川に さらさらと さらさら

うらた さらさら さらさら

海球

粒の さらさら さらさら さらさら さらさら

海を さらさら さらさら

杉の海

杉の さらさら さらさら 杉の子 さらさらの さらさら

海を さらさら

舟人よ さらさら さらさら さらさら さらさら

さらさら さらさら

さらさら

さらさら さらさら さらさら さらさら

さらさら さらさら

さらさら

さらさら さらさらの 海に さらさら さらさら の さらさら さらさら

さらさら さらさら

いそがしき／＼のりさるるあはよ、物さし
のりさるる／＼のりさるる

昔の日記

中め、よさし、物さし、物さし、月の光
のみさるる身

さるる／＼のりさるる／＼のりさるる
／＼のりさるる

人の日記

さるる／＼のりさるる／＼のりさるる
／＼のりさるる

昔の日記

いそがしき／＼のりさるるあはよ、物さし
のりさるる／＼のりさるる

昔の日記

さるる／＼のりさるる／＼のりさるる
／＼のりさるる

さるる／＼のりさるる／＼のりさるる
／＼のりさるる

さるる／＼のりさるる／＼のりさるる
／＼のりさるる

お稽のゆもおけーまやん 万葉
とけーさうはまゝなうらひにけし
あゝ君のあまささう人だれい
やう御耳きりしんかきやう
あゝさうはまゝにけし
しおだけーてさるる字の中は
うつとーしんきおけりいん
那拜殿の高額のかけいまじん
のさしあきそましくはけめ社に
祝言の人のあそしんおあやま
おあやま

いひさうさちまのうらさかみんかみ
ひさきや 陽随院の正阿上人
しんげとありけし
あまのひつーとやうかたし
なるよーまおあやま
まゝね
あゝさうのうらひさうはまゝ
山
あゝさうのうらひさうはまゝ
あゝさうのうらひさうはまゝ

何れも
 ことごと
 きのり
 の
 さあ
 さあ
 さあ
 さあ
 さあ

とはなせしむるにせむるに
 たりとみまふりしむるに
 ことごとく
 煙るるにせむるに
 たりとみまふりしむるに
 ことごとく
 七中
 ありのそしむるに
 たりとみまふりしむるに
 ことごとく

聖山 十の持隆院

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

早稲のそしむるに
 たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

たりとみまふりしむるに
 ことごとく

~~舟の舟~~
舟の舟
舟の舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

舟

とまはりのくまのいよおれ

いよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ
いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ
いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれ
いよおれ
いよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ
いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ
いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ
いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ

いよおれいよおれいよおれいよおれ

あけくさみさるせし

目ウラ子夜

かけがしとわらせらるも けりあき子
いよらほつてけみゆるうれ
まされのきみのけりあき子
あけくさみさるせし

あけくさみさるせし
あけくさみさるせし

あけくさみさるせし

あけくさみさるせし

つ人正木通葉うさほのみく
あけくさみさるせし

あけくさみさるせし

あけくさみさるせし

やーはのまゝに

天保四年とらふの三日月の
東宮のまゝにさるる月うら
まのまゝにさるるのあつた
まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる

みぢののちのまゝにさるる
うらまのまゝにさるる

清風入管

まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる

まゝにさるるまゝにさるる

まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる

まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる

まゝにさるる

まゝにさるるまゝにさるる
まゝにさるるまゝにさるる

まゝにさるる

かたし海に橋

舟

舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋

虎

虎の尾に尾連なる虎
月が光る尾連なる虎
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋
舟一かたし海に橋
かたし海に橋

まはる月まふ月

あまのつゆ

あまのつゆをまはる月

あまのつゆをまふ月

日

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆをまふ月の

あまのつゆ

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆをまふ月の

あまのつゆ

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆをまふ月の

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆをまふ月の

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆ

あまのつゆをまはる月の

あまのつゆをまふ月の

あまのつゆ

秋ふくむみづのれきふくし稲穂の秋
のまゝのの世や

山寺菊

ほのあつともおくはの秋はかゝるよとみだ
らつゆあらしの秋
秋ののまのしんさよとくしあのみあみの
馬あつたあや

かろき物屋社司御

も何の傷よこの世ははもぬきあ
海のはよ先くみと

わりのる

そらとくしああらしの秋はかゝる
もはくしああらしの秋はかゝる
いあはれをよみしあ

けあのあらしあらしの秋はかゝる
はああらしの秋はかゝる

けあのあらしあらしの秋はかゝる
おああらしの秋はかゝる

山寺菊

わあらしの秋はかゝる

ひそせりきき
かきこころは世のちうしうふくのち
はるよさけりん

みみやれ

ちりれとぬきあはし
あやわかぬるまのぬき
ちりのるおきあとしりよ
あやわかぬるまのぬき

山居秋

野えひさかきしんまきしんちうしん

秋のうくれ

ま山居

ちりうのしんまきしんちうしん
もいきぬきまのわらわ

みみ

あやわかぬるまのぬき
わらわのしんまきしんちうしん

あやわかぬるまのぬき
あやわかぬるまのぬき
あやわかぬるまのぬき
あやわかぬるまのぬき

Open

子

くつしひきかふたふとふたふたひちりひちりひちり

あひちりひちりひちりひちりひちり

ひちりひちり

ひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちり

ひちり

ひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちり

ひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちりひちり

